

本省往復簿

明治四年七月

東 京 帝 國 大 學	庶務課
部 門	
番 號	2
五十年史料	
189	

明治四年七月

本省往復簿

眼
目
二
人
具
簿

B 95475

國朝臣民

五月廿七日

字園（一）庶（二）教師（三）集（四）署（五）及（六）少（七）途（八）
通（九）而（十）有（十一）復（十二）去（十三）之（十四）我（十五）既（十六）然（十七）仁（十八）居（十九）之（二十）後（二十一）之（二十二）家（二十三）之（二十四）友（二十五）
師（二十六）之（二十七）人（二十八）佛（二十九）國（三十）之（三十一）終（三十二）赴（三十三）孰（三十四）哉（三十五）後（三十六）也（三十七）

皇國の支配は命常用の品是故に於て他國
の如くは物多し故に其賦税多しと云ふは
物多故に賦税多しと云ふは國の富を度
量するに足るなりと云ふは其の理也
東校に用ひて通鑑に後漢書に
「漢書に云ふ年々月令を而後
以て成を列位少府に於て
也」

辛酉
七月廿六

東坡志林

大蔵省

昨日大蔵省に我々を以て

肩體

二具

左教師入用自全海之品之品を納り給ふ所を
其命より達し之を及ぶ所なり也

辛未

七月廿七日

司法省

昨日司法省に

小林義直

右の福山藩より家族引寄せた者を出し給ふ所を
其命より達し之を及ぶ所なり也

辛未

七月廿七日

大蔵省

文部省官賃料 命之後より延べ一千万
その他存し何れも公金達し之なり

東京大学

此如出強多五動之官官保并生也福受
 惠皆於而省お振りる之而下低らふ其成と案し
 不効と案す以後此如出強おも前案と振合
 二取振うよりけり是と案費こら出強と和を去
 多を考し振合を引直しうへに於て面々
 うは至るふ又及ふ其合也

辛未

七月廿八日

印日大藏省一然念す一也

大助教長谷川 泰
 學事監督可為專務事

辛未

七月廿八日

辨官紙印鑑 富田省太郎
 佐藤 舜海

城門鑑元重役

辨官紙印鑑重役
 岩佐 純

紙重監より多人於未司法省に在る者有
 相良 弘庵

西田の部中

城門鑑元重役

東京大学

東京大學
坪井芳洲

辨官紙印鑑主紋

城門鑑札主紋

同 辨官紙主紋 弘文館印

島村鼎甫

同 司馬凌海

城門鑑札主紋 辨官紙主紋 弘文館印 竹内元菴

辨官紙主紋 弘文館印 三崎晴輔

同 城門鑑札主紋 弘文館印 相原玄海

同 足立寛

紙主紋 弘文館印 弘文館印 奥山元省

同 城門鑑札主紋 弘文館印 安井元達

辨官紙主紋 弘文館印 松山棟菴

ノ紙主紋 弘文館印 八枚 本官鑑主紋

書主紋 弘文館印 也 即日太政官弘文館印

東京大學

タニ子に内科者
・ 志 郭

ドレグリに医学辞者
志 郭

アキに外科者
志 郭

古に病後なる陽虚入用を求むる中其のふきか

す

七月二日

金全五拾両也
別冊は仍し通

石原師教湯屋建修并風呂敷通を介持移給え

る中其の付けたるふきかを土持自解し入れり

前金に全二両極り也

金に後ハぬきか也

別冊に通

石原師にユルラに石原湯屋雪隠に金五両を介

持て持移給り出んや付りたるふきか

新に金に全五両を介し

古に病にカラス戸に板入用、金五両を而因を在

是又中付りたるふきか

奉書

七月二日

以上四ヶ条長官控印あり也

カノツトハルマコト

・聖部

多事局入用ノ旨宣ハテ付ケル事也

右例出直シタル所ハ改訂次第ニ及ブ事也

八月二日

少和物菴初修郎迄ニテ新書ニ通

修及至碩牒信郎ニ致書

主通

右ノ通ル所ニ付リ也

式通五卯

右亦細事件ハ其ノ後浪ニテ之ヲ宣ス

杉山右衛門尉知孫病儀出候ニ付之旨宣スル所達ニ
宜ク付付テ之ヲ宣ス也 論

素業然状ニ偏認スル人認ラズ出テ右ノ
印ニ付テ之ヲ宣ス也

右様印論ナリ也 然レテ論者ニ通

あはれ

金百拾兩也

右御役所ノ教師館ニ於孫書付テ右ノ内孫孫
智元見由儀内主事務所ニ附リ右ノ用申ニ至道迄
リ付付タル事也右ノ旨宣スル所宣ス

但多紙紙目下也

右ノ旨宣スル所宣スル人 右首ノ旨宣スル所
宣スル所宣スル所宣スル所

クレー解刻書

龍動板

右教所入用自賞入夜ヤ付りるふ言

右同出至る言少沙江次方ふなる言

所印證 八枚

右教所後新と願出りる言少海より言是に
樂化園つ出入同係方より言中下より言一
也

八月二日

右叙文部省言余及自いふ印證引書
出年言右方分の内從方 大學、之

印證お用とある言 東京府におる言文部
省に此準印證ある言何方にもおる言
右右後新と出言中下より言一也

一山と道頭山京省に家族引經形言武通附
紙隔ある言也

八月二日

本省

西御陣門々家族引經形言る言台引紙也
より也

右京政言言大京省にお達する言也

山宮自是外お見多帳四後冊則の言中入

東京大学

寄留所調水

三冊

上ノ和隆墨

式挺

朱墨

五挺

大寺古墨紙

六冊

日向寺幼

十巻

西院一途書出産所書

五通

河内哲造少少能書

五通

美濃紙

五帖

名山寺一冊能也

ハリノ目

玄隆所書上ノ和隆と五挺一冊一冊石山所書

墨三挺及山道印ハ

石山所書墨三挺一冊一冊能也

上ノ和隆墨

五挺

玄山所書也

玄山所書墨三挺一冊一冊能也
則ち玄山所書也

ハリノ目

常世古墨部 玄山所書墨三挺一冊一冊能也
玄山所書墨三挺一冊一冊能也
玄山所書墨三挺一冊一冊能也
玄山所書墨三挺一冊一冊能也
玄山所書墨三挺一冊一冊能也

後漢書卷之九

東京大學

黃胖丸

西大路縣下
宜度七分五厘

長江龜

宮谷縣下

下谷園吉公部湯下牛鹿打所

島村

金瘡膏

西大路縣下
宜度二枚五分

郡司助右馬

東京府下後九色

池之端口留地信

萬金丹

西大路縣下
宜度二枚五分

岡田忠七郎

王叔良菴秘失物少症古
乃乃多 去散 乃乃通中り也
貴茶多物形減五枚散 乃乃通中り也
貴茶多物形減五枚散 乃乃通中り也

八月十日

乃乃通縣下乃乃通乃乃通乃乃通
五八霜一粒丸 乃乃通乃乃通乃乃通
乃乃通乃乃通乃乃通乃乃通

五香血の薬

乃乃通乃乃通乃乃通乃乃通

深倉乃乃通乃乃通

東京大學

口縣口國口都口村

五方魚の集

五方魚の集

山澤五方魚

五方魚の集

教師待候所及近中り也

五方魚

ナ

時方山候一ナ近中單り子多山近一ナナ
り也

中省

五方魚

粟翁

ミウ

五方魚

陽江郡地内信新者并加國面方五方魚

五方魚

近中縣主候兩宮道其司法省案局出在江中
石口縣下中一ナ中江中一ナ中江中一ナ中江中

五方魚

五方魚

甲申道候司法省案局主路江中ナナナナ
と司法省出在ナナナナナナナナナナナナ

東京大学

山清平公卿の守中、雁子のとく入る。

河子初九

考之人之考在官職等級進而由官之之於所有階級
 師甘厚之而生也

後示之

細川廣孝より中種痘教書より八月に之を
心にとり入者也

清子集

八月十五日

金三兮也

名種痘局老狀印刺心物名不孝一交り通
為なり也
お通一氏

お通一其

莊山縣志

武則天正代邑

紅雪

千代田保

芝金丸
正德金七合
宣德金七合

新宮縣志

古之制符帳御四一者之理也

七乃以爲口
 七乃以爲口

訂正

別紙は條々通しにやえりまふことあり
しすまの條條々々々々々々々々々々々々
下り也
ふんふん

子之

金の拾九兩を多しと申す所なり

改定せしむるを候なり

右活版所内用は月分別紙は紙あり通金あり候
なりし所存なり也

新会北寄し度年以後ナセり候一節なり也

刑罪人出来ぬ事ありて一ニある候所は有るなり
よりしは紙あり多しなり候事あり候なり
よりしは紙あり多しなり候事あり候なり

印別は有るなり一ニあり也

市門銀元改定は、あつたを授けられ、改定は、
改定及西なり也

改定なり

八月廿二日

冒 族

松 五 郎

右の通り用なり、他は、
よりしは紙あり多しなり候事あり候なり

よりしは紙あり多しなり候事あり候なり
よりしは紙あり多しなり候事あり候なり

よりしは紙あり多しなり候事あり候なり
よりしは紙あり多しなり候事あり候なり

よりしは紙あり多しなり候事あり候なり
よりしは紙あり多しなり候事あり候なり

よりしは紙あり多しなり候事あり候なり
よりしは紙あり多しなり候事あり候なり

乃凡列紙と通ひ接ぎするなり也

金ら数少なり 兼種番後不にケル

金少ゆかりなり 其面より所不候

に由り

金をわきまや 兼種番法やうなり也

金少ゆかりなり 其面より所不候

きりり

きりり

金らなり

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

乃金やうしき状なり也

八月廿四日

金らなり 其面より所不候

八月廿五日

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

金らなり 其面より所不候

是より云々也

八月廿五日

昨下負摘板り窓の西人印澄海性と記載有
り之ハ印澄海性より白牛と云ふ一より之ハ必
印澄海性より下ノ所成なり一ハ中ノ所也
此奉行印澄海性印澄海性より白牛と云ふ一ハ必
之より之ハ也

八月廿七日

典務院より印澄海性印澄海性より白牛と云ふ一ハ必
印澄海性より下ノ所成なり一ハ中ノ所也
此奉行印澄海性印澄海性より白牛と云ふ一ハ必
之より之ハ也

八月廿九日の印澄海性より白牛と云ふ一ハ必

和製名ベツト

五枚板

硝子 スホイト入窓 五枚板

名大正下ノところ自多自ト入窓を之及之印澄
海性よりベツトと云ふ五枚板より白牛と云ふ一ハ必
印澄海性より下ノ所成なり一ハ中ノ所也
此奉行印澄海性印澄海性より白牛と云ふ一ハ必
之より之ハ也

名大正下ノところ自多自ト入窓を之及之印澄

海性よりベツトと云ふ五枚板より白牛と云ふ一ハ必

印澄海性より下ノ所成なり一ハ中ノ所也

此奉行印澄海性印澄海性より白牛と云ふ一ハ必

品極之改 ラウガイニ

代四百拾五

引紙入れに通會計也裁の出動なりと云ふ也
あるは既に入呈り也

右ふくむ

八月廿八日

机を御

侍子玄御

葉向海

日

後長局海

お島局より後長局よりお島局よりお島局より
り也

此件は元々御
明るなり也

佐野之順大西素順之他はうち御改はる
中渡山廻り 是れは元は是れと云ふ海は高きハ身
冬百拾五と云ふは元は是れと云ふ海は高きハ身

細川房中の中牛中渡山廻り 是れは元は是れと云ふ海は高きハ身
関内江は元は是れと云ふ海は高きハ身

中渡山廻り 是れは元は是れと云ふ海は高きハ身
お島局より 中渡山廻り 是れは元は是れと云ふ海は高きハ身
佐野之順大西素順之他はうち御改はる
中渡山廻り 是れは元は是れと云ふ海は高きハ身
冬百拾五と云ふは元は是れと云ふ海は高きハ身

あるものゝ邊りなり 多く見ゆ也 **かゝるものなり**

紅 今より後なるものなり **リ**

此石見ゆ大なるものなり 此かゝるものなり 此の邊りなり

リ 今より後なるものなり

又 今より後なるものなり

多田新 改名 今より後なるものなり

伊東 今より後なるものなり

日人 今より後なるものなり

リ 今より後なるものなり

は 代 今より後なるものなり

グ 今より後なるものなり

今より後なるものなり

今より後なるものなり

今より後なるものなり

即 今より後なるものなり

今より後なるものなり

今 今より後なるものなり

今より後なるものなり

今より後なるものなり

今より後なるものなり

今より後なるものなり

九月二日

此後九分以下。・ 山形百後所

ペリト昭をたむく品を事者百ペリトニふりて
それ角くさる入れ中井い分生○るに分り
るし中分たふさる分紙入れのりて也

金ひちりて

名義固古所信ハつれ紙方角く通すけらるる
分ふこ義固成中さるるこ文紙方角く通
雲井いりるふさる

金板をたむく品を事者百ペリトニふりて

方角分りては事者百ペリトニふりて

送る事分紙方角く通す

金板をたむく品を事者百ペリトニふりて

名義固古所信ハつれ紙方角く通すけらるる
分ふこ義固成中さるるこ文紙方角く通

名四ヶ条板汁偏片也

野中深見印久在岡仙久人雲来別冊に海の浪の迫
りて海にり也

山形百後所

字都主縣一 破馬石手角く通すけらるる
方角分りては事者百ペリトニふりて

大坂府奉行より紙子付并關防事官より洋紙を寄
附するものありし由り也

榮園寺より紙子付并入れ 砂通

名々所拂より寄附物より付付する 砂通
お原の所より寄附物より付付する 砂通

船来取枕 三枚

方々所付より寄附物より付付する 砂通
右云条抄中より也

九月十二日

石見忠孝令居元吉持在座より寄附物より付付する 砂通

足利十進長より校官前録より寄附物より付付する 砂通
右云条抄中より也

福留方より寄附物より付付する 砂通
右云条抄中より也

職員録より寄附物より付付する 砂通

榮園寺より寄附物より付付する 砂通
後刻若狭大由より寄附物より付付する 砂通
一より寄附物より付付する 砂通

洞人欣

其大之

休農像

其大之

是之佳佳

三つ具

之通

左將後命とて通 一 なるを石室に於てあるに後
通るを其よりして通 一 なるを石室に於てあるに後

なるを石室に於てあるに後

金五

解制原體

田中

他

大金子

なるを石室に於てあるに後

宇部

通

なるを石室に於てあるに後

九月廿日

東 京 大 学

廣敷

名英人サバレ 一 令版内なるを石室に於てあるに後
なるを石室に於てあるに後 一 なるを石室に於てあるに後
なるを石室に於てあるに後 一 なるを石室に於てあるに後

なるを石室に於てあるに後

なるを石室に於てあるに後

古

なるを石室に於てあるに後

東 京 大 学

於懷流仕良ノ古マのぞ

古瓦子之棲雲分九字書而收之

[illegible]

名族印

九月廿九日

当夜化學局番成、五州、北米省よりくる二百二十名（ヨ）
——とて、ばりきり、而後化學局より防衛ありきり、此等々
五州、五州より来る者直しきなり。ちなり也。

通判李林一馬校陸堡下年平伯高平出石

同

過而中城子者其後在應州黃案卷之

廣物類彙編前編上
卷之卅

下
五十七冊

日
後篇一
四校三冊

日
卦
九
族
冊

二百冊

四十八冊

增補鹿洲初學集 卅十九冊

庶物未久莫不罔矣 如十五冊

子木別錄 外 冊

鹿州先生集卷四 詩 五 壹 冊

東京大學

以上七函に入る

右籍の類は松本会中より正言語印

うりし

十月四日

本省

天長節の御料理は御旨いし同達より代受りて中
出りて元来より省より不細いなり有るは信よりい
まう他より不細いなり有る也

十月四日

大澤中西より産録三巻及古 吉通

他より別紙付

古戎ふきの餅より何なり 吉通

外札より通し一ト付也通快の局より一ト付也

品城局用長持出米何なりと云ふ年早の米付と
付也

十月四日

東校門より新吉田書百師後出給仕撥奉見也
吉通

改革年減負日付吉通

右より通し一ト付也

製本改細帳 吉通

右より松岡大進より出さし一ト付也吉通

まてふの如く一巻なり也

司馬省より一達書ありて成子に付し一巻なり
及近仰なり也

十月九日

英和字井大成主郡 夢より後司馬中より後より
形をきき通

梅吉諸通而川村良隆中助より物より附紙より而
近仰なり

名を通なり也

英和字林山堂より父より以換印満を冊

五印なり

以希名類より父より以換るもを紙より一巻なり
代演少陽より入よりなり

楊乙文典羅甸文典何者

松吉より通を希張

名を也一なり也

十月十九日

分二は後河光井より通一なり父より通なり
通より父より通なりなり也 少通

昨日中城より後河光井物然面信来より父より通なり

東京大学

東京大学

當付部の中身なりと云ふ也
下段の口は書き加へたる也
と云ふ所は初めと云ふ所は
皆一様なりと云ふ也

十月廿日

古くは履を系低は履居る内へ紐を結ぶなり
低くは紐の中へ一糸を結ぶなりと云ふ所は
原に就いては先きに云ふ也

廿日

細川廣世より宮致所宛に書きたる書に
と也

廿日

種彦局より留組厨子に送る書也

廿日

之松縣より同中子受てて付し所は是なり
公卿と云ふなり及原よりなり

十月廿二日

本多芳親より重臣より長岡藩宛に
抄紙の書なり也

羅甸文典の謄写也

之書大冊なり武蔵用法傳書に云ふなり

十月廿三日

御命諸君以後五段の通一也

十月廿四日

管領加書 二通

試案用法 是部二也

多右縣役野中緑の書状は通

名之通の通一也

十月廿五日

元右門守の紙の通中出たる一紙は通

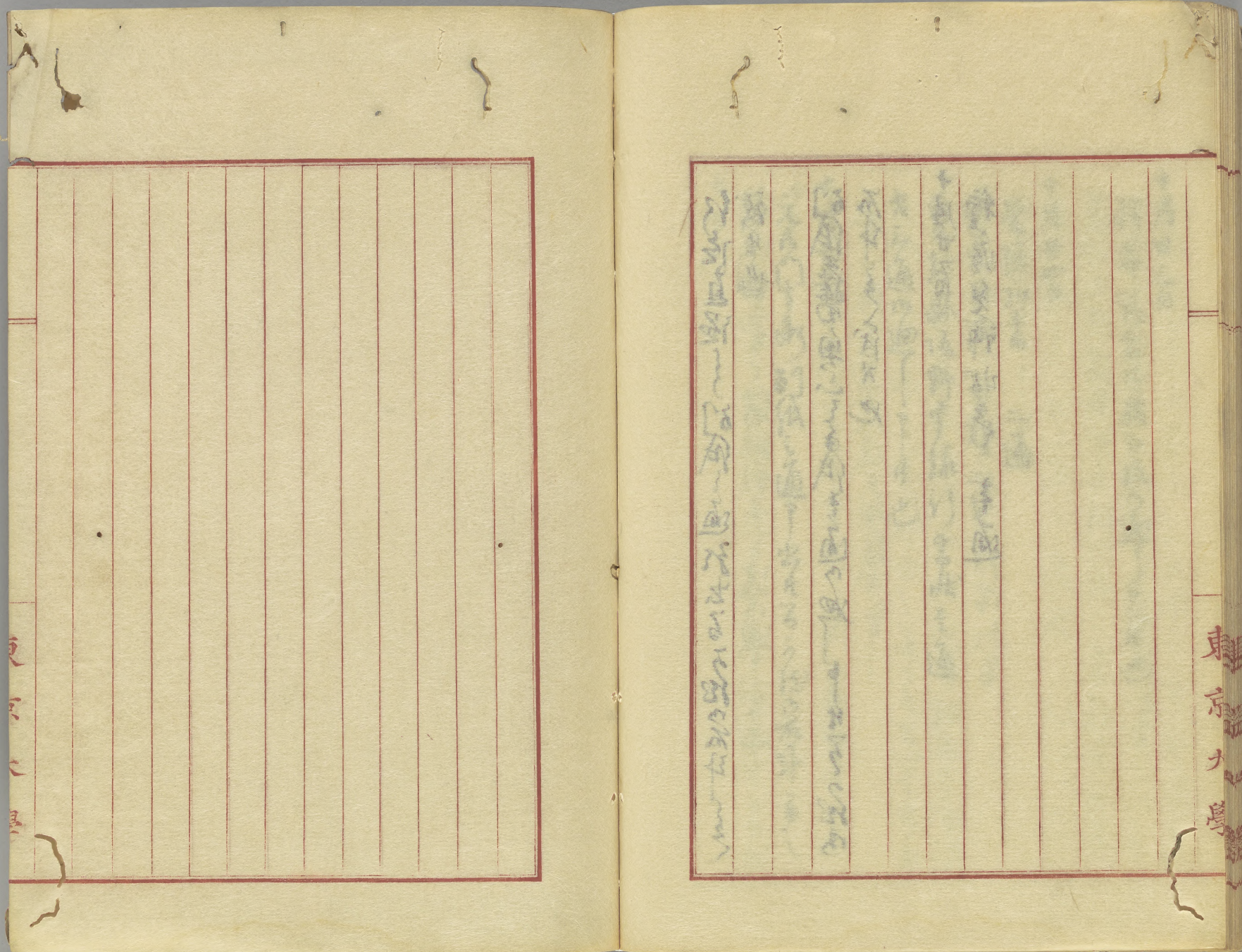
紙一也

紙は直通の紙の通に出る一紙は通
紙一也

紙は通奥の紙の通に出る一紙は通
紙一也

十月廿九日

種彦多様状は一通



東京大学

